

Alcochete

について



アルコシェテ

アルコシェテ（Alcochete）の町はムーア人によって開かれ、「アルカシェテ」（Alcaxete）と呼ばれていました。これは「窯」を意味する言葉であり、かつてこの地にあった陶土を焼くための巨大な窯に由来すると考えられています。その後12世紀に、ポルトガル初代国王アフォンソ・エンリケス（Afonso Henriques）によってムーア人の手から奪回されました。

15世紀には、この一帯に鹿やイノシシ、オオカミなどが豊富であることから、貴族たちが頻繁にこの地で大きな狩猟会を開くようになりました。やがて彼らは夏の別荘を構え、より長く滞在するようになりました。

製塩はこの地域最大の天然資源であり、アルコシェテは長らくポルトガルの製塩の重要な中心地とみなされていました。今日でも、製塩業は町の基盤産業となっています。

リバテージョ地方（Ribatejo）のほぼ全域がそうであるように、アルコシェテもまた馬や牛の飼育が盛んな土地であり、住民はフェスタ・ブラヴァ（festa brava）（肝試し）を楽しみます。これは、毎年8月第2週に行われる「緑の帽子と塩田の祭り」（Festas do Barrete Verde e das Salinas）のハイライトです。この祭りでは、牛追いや闘牛などが最大の見せ物となっています。

町の近くにはテージョ川河口自然保護区（Reserva Natural do Estuário do Tejo）があり、ここを経由地とするさまざまな渡り鳥を観察することができます。なかでもフラミンゴの群れは圧巻です。